

あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、年度末に向け、今年度のまとめや新年度の準備を進められていることと存じます。

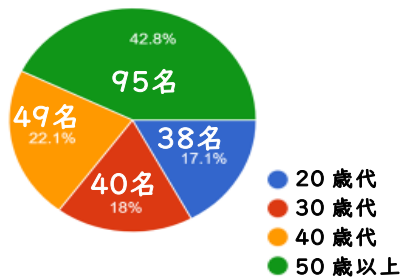
さて、11月には、会場やオンラインそれぞれの場所から、養護教員研究大会へ御参加いただき、ありがとうございました。大会アンケート結果を御報告させていただきます。



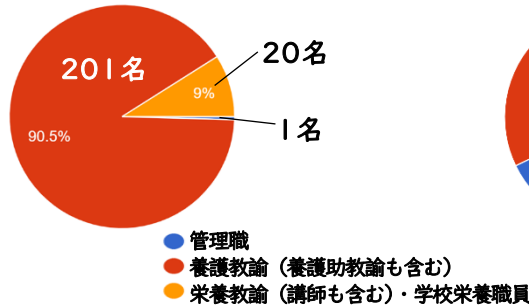
## 令和5年度 第44回愛媛県養護教員研究大会 アンケート報告

(参加者 330名・アンケート回答者 222名)

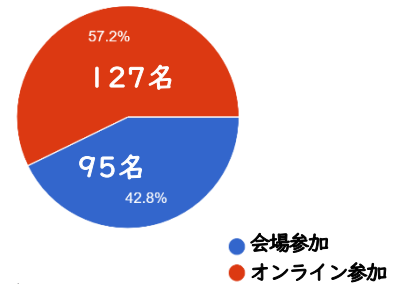
### 年齢



### 職種



### 参加形態



## 1 研究発表

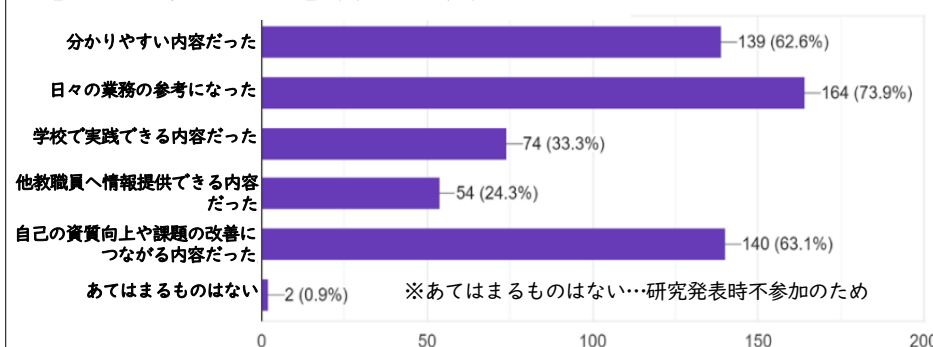
- ◆ 中等度肥満の解消を目指し、生活習慣を改善しようとする児童生徒の育成  
— 小児生活習慣病予防健診後の個別指導を通して—

四国中央支部 (発表: 四国中央市立川之江南中学校 真鍋由佳 先生)

- ◆ 児童生徒の心の健康課題における教職員との連携の在り方  
— 支援モデルの作成・活用を通して—

伊予支部 (発表: 伊予市立伊予小学校 上田あゆみ 先生)

### 【研究発表について】(複数回答)



### 〈参加者の感想〉

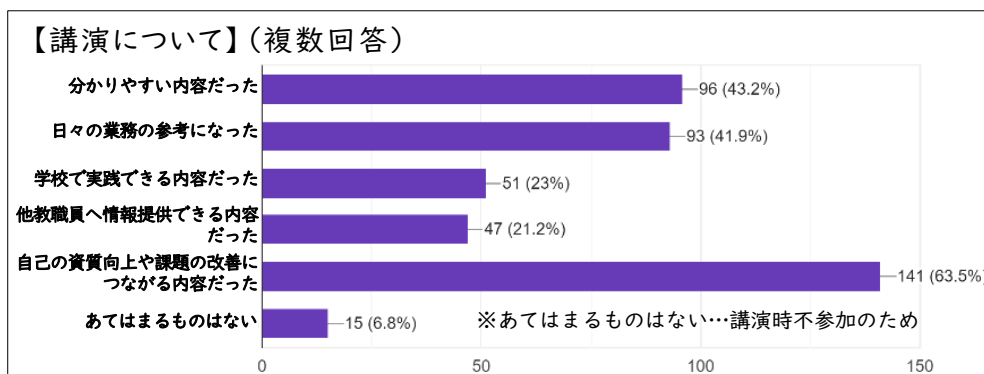
- 養護教諭が、児童や教職員と関わりを持つことで助けられる人がたくさんいることが分かった。
- 養護教諭と栄養教諭が連携して個別指導を長年続けられている、素晴らしい発表だった。
- 先生方の熱意が保護者に伝わり、家庭の協力を得て、児童生徒の育成へとつながっている。
- 心の健康課題に対応する資料は本当に便利で、すぐにも活用できるものと思った。教職員研修資料が養護教諭の経験や知識を基に作成されたものであることに感銘を受けた。
- ICTを使った支援シートは、多方面からの情報交換、共通理解ができて素晴らしい。
- 心の健康通信は、先生方の温かい思いが詰まっているように感じた。

## 2 講演

### ◆ レジリエンシーを育てるライフスキル教育

講師：神戸大学人間発達環境学 研究科 名誉教授

JKYBライフスキル教育研究会 代表 川畑 徹朗 様



### 〈参加者の感想〉

- 子どもたちが自立し、尊敬し合う仲間づくりができるよう、養護教諭の立場から支援し関わっていききたい。
- 保健室登校の生徒にも、自分の気持ちを伝えるツールとしてやってみようと思う。また、なぜそう思うのかを話す、聞いてもらうことの大切さを実感した。
- まずは、自分自身が傾聴する姿勢を心掛け、自分の足りないところはチャレンジし、自己肯定感を上げながら児童の支援に取り組もうと思った。
- 教室で教えるだけでなく、周りの大人が手本にならないといけないという言葉が心に残った。
- 「人によってストレス原因も反応も違うから同じ基準で判断しないようにする」という言葉は、本当に大切な考え方だと思った。大人にとっての「そんなこと」も、子どもにとっては大きいことであることを忘れないようにしたい。



※ 研究発表・講演内容については「あゆみ 42 号」で御確認ください。

### ～第 44 回愛媛県養護教員研究大会を終えて～

#### 副部長(東予) 新居浜市立金子小学校 篠原 幸子

44 回目を迎えた愛媛県養護教員研究大会は、昨年度に引き続き、ハイブリット形式で開催されました。今年度は、会場参加人数の制限を設けませんでした。会場参加 148 名、オンライン参加 182 名となり、コロナ禍を経て、大会の在り方は大きく変化しました。来年度からは、研究発表の持ち方も新しくなります。昭和から平成、令和へと続いてきた本大会が、今後も愛媛県養護教員にとって大切な学びの場で在り続けるための前向きな変化、新しい挑戦が始まります。

「『ああ疲れた』じゃなくて『ああ頑張った』でいいんだよ」、これは高橋書店から毎年発行されている私の愛読書ならぬ愛読カレンダー「名言・格言日めくりカレンダー」のある日の名言です。頑張ったと思える疲れには充実感があります。参加者や研究発表に関わる方々、そして役員が、「ああ頑張ってよかった」と感じることができる研究大会として、今後も継続していくことを願いつつ、来年度に引継ぎたいと思います。最後になりましたが、大会運営において、御指導いただいた愛教研事務局の先生方並びに御協力いただいた文教会館のスタッフの皆さんに心より御礼申し上げます。



### — 令和6年度 愛媛県養護教員研究大会 お知らせ —

- \* 期日 令和6年11月中旬頃を予定
- \* 会場 エスポワール愛媛文教会館
- \* 講演 演題:「未定」  
講師:女性のための総合ヘルスクリニック イーク表参道 副院長 高尾 美穂 様